

### 3・11の記憶

大森 海太

東日本大震災から早くも十年の月日が流れた。十年前のあの日あ  
とき、皆さんそれぞれ忘れられない経験をされたと思う。

私の場合、それはホームコースの十七番ティーグラウンド上だった。  
たまたまオナーだったので、ティーアップしていき打とうと構えた  
たんにグングラツときた。正確に言うとその直前、後ろの木立から鳥  
たちが急に飛び立ったのを覚えているが、とにかく尋常の揺れ方では  
ないので思わずしゃがみ込んでしまった。数百メートル先の電波塔が  
左右に大きく揺れていた。

揺れが収まったところで「いやあ、でかかったね」などと言いな  
が  
らプレイを再開。なんとか十八番までホールアウトしてクラブハウス  
に戻ってみると、ゴルフを途中でやめて引き返してきた人や風呂場か  
ら慌てて飛び出してき人たちで、何やら騒然としている。

テレビの前に人だかりがして「東北地方がひどいらしい」「こっちで  
も電車が止まっている」と噂が飛び交っている。我々の組は着替えも  
そこそこに満員のクラブバスに飛び乗って、ともかくも最寄りの駅に

たどりつき、いつもの居酒屋でイッパイ飲みながら様子を見ること  
にした。

あたりが暗くなったころ、ようやくカミサンに電話がつながり、我  
が家は無事とのこと。一方こちらはいつまでたっても電車運転再開の  
心配がなく、こうなったら居酒屋で夜明かしか駅のベンチで寝るしか  
ないと覚悟した。

ところが一緒にプレイしたSさんの自宅が近くで息子さんが車で  
迎えに来てくれたので、結局あとの三人はお宅のリビングに泊めてい  
ただくことになった。Sさん夫妻は愛猫家で十匹くらい飼われており、  
夜中に猫ちゃんがすりよってきて目が覚めた。

翌朝S家を辞して帰宅したが、その後津波やら原発事故やら、地震  
の被害は想像を絶することが分かってきた。

あれから十年、そう遠くない将来には、富士山大噴火やら南海トラ  
フ大地震が起こるかもしれないという。でも私の目の黒いうちはなん  
とか勘弁願いたいものだ。